

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名:寺岡ゆみ子(石本康祐) (滋賀県総合教育センター 石垣秀憲・山本康雄)

所属: 滋賀県立守山養護学校

記録日:2022年2月1日

キーワード: 遠隔地リモート通信

【対象生徒の情報】

・学年

中学1年生

・障害と困難の内容

病弱

・使用した機器に

iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

○目標

(1) 地元校(以下A校とする)と連携し、学習や学校生活についての情報を得たり、コミュニケーションをとったりすることで、安心して日々の生活を送れるようにする。

(2) 自分の現在の生活に合わせた学習方法を見つけ、主体的に日々の学習に取り組めるようにする。

・実施期間

令和3年5月17日～令和3年12月23日(転入～転出)

・実施者

石本康祐

・実施者と対象生徒の関係

担任

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

○対象生徒は、A校に入学し約1か月中学校生活を送ってから、5月15日に本校に転入した。

5月17日に手術を受け3日欠席し、5月20日より登校してきた。

○生活面

・整形外科治療のために本校に隣接する病院への入院に伴い県外から転入してきた。

・2年前に別部位の治療を行っており、その際にも他県他院にて、長期間入院治療を行った経験がある。今回は上腕(両腕)の手術、治療を行っている。

・今回は約半年間入院する予定であり、退院後はA校へ戻ることになる。

○学習面

・授業など学習にはまじめに取り組めており、当該学年の内容を履修中である。

・A校に入学して1か月程度で、本校に転入することとなった。そのため、中学校での学習スタイルになじみがなく、自分で学習を積み上げていく必要があることにまだ気持ちが向かない。

・下校後病棟では、自分で勉強しないといけないという気持ちをもちながらも、病室は4～6人部屋で、病棟内の友達と関わることも多く、学習以外のことに気持ちがそれてしまうことが多い。

・A校の学習の進行具合も気になるようであるが「ここが心配である」というような具体的な言葉での訴えはない。

○コミュニケーション

- ・家庭から離れ、友達やA校からも離れて生活・学習することになり寂しさを感じることもある。
 - ・A校に入学後は、楽しさを感じながら登校することができていた。友達との関係も良好である。
 - ・吹奏楽部に所属しており、現在もLINE等を利用して、A校の友達や家族とはやり取りしている。
- ※ 入院中の生活状況・・・以下の表のような流れて、日々の生活を送っている。(本校の学校案内より)

入院生活(日課表)		学校生活(校時表)	
6:00	検温・起床		
7:00	朝食		
8:00	入浴		
9:00	治療・リハビリ		
9:55			
10:20	登校開始	10:20~10:35	登校
		10:35~10:45	朝の会
		10:45~11:25	1校時
		11:35~12:15	2校時
		12:15~13:05	昼食
		13:05~13:45	3校時
		13:55~14:35	4校時
		14:45~15:25	5校時
		15:30~16:10	6校時(火曜日のみ)
15:25	完全下校 (火曜日のみ16:10)		
15:00~18:00	おやつ・治療・リハビリ		
18:00	夕食		
19:00	学習		
21:00	消灯・就寝		

入院生活を送る病棟から、病院に隣接する本校の校舎までは、一般道の上に架けられた連絡橋を渡って、教師(担任とは限らない)の引率のもと通学する。通学路は全て室内で、大人が通常で歩いて約6~7分程度かかる。登下校時に、子どもたちと様々な教師が会話をする機会となっている。

・活動の具体的内容

目標(1) A校と連携し、学習や学校生活についての情報を得たり、コミュニケーションをとったりすることで安心して日々の生活を送れるようにする。

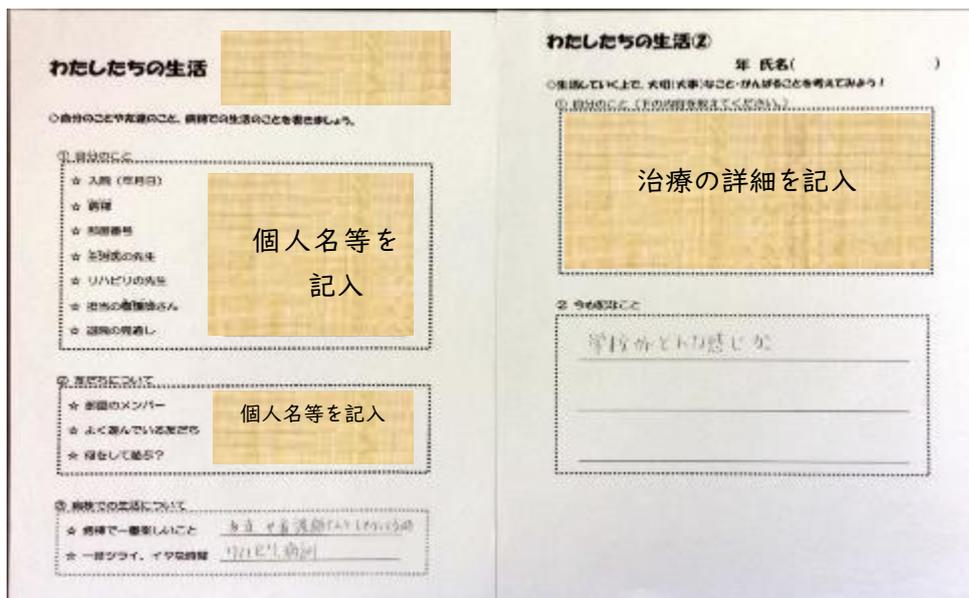
①リモート通信に向けた取組(週1回 金曜日 4校時の自立活動の学習時間を中心に取組を進めた。)

◆使用アプリ：Zoom



	治療の経過 体調面	取組	対象生徒の様子・発言や思い	対象生徒の思いの分析(☆) と教師の働きかけ
5 / 27	・筆記はできる。 ・両腕の挙上不可 ・今後はずっと痛みを服薬でコントロールしていく。	対象生徒の心理状況を把握するための取組:ワークシート『わたしたちの生活』を記入(資料1)。	・記入の際に、自分から積極的に思いを伝えてくるということはほとんどなく、担任から言葉かけをしながら記入を進める。 ・「A校のことが気になる。」 ・『②今心配なこと』の欄に、「(地元校が)学校がどんな感じか」と記入。	☆A校のことが気になっている。 ・A校とつながることを担任から提案。 リモート通信を利用して「実際に担任の先生に、A校のことを聞いてみよう。」

※資料1:ワークシート「わたしたちの生活」



5 月 末	・治療が進み痛みやしびれがある。	iPadで、A校の様子を知るためにホームページを見る。	・入学式当日の写真を発見し、「これが私だ。」と自分から嬉しそうに伝えた。 ・自らiPadに触れ、さらに掲載されている写真の内容を、自分から担任に説明した。	☆A校のことを思い出したり話したりすることは嬉しい。 ☆A校のことをもっと知れるのはよい。
6 月 第 1 週		A校から送られてきた学級通信を見る。	・クラスの友達の写真を見て「少し寂しい気持ちになる。」 ・転入前に撮られた自分も映っている写真に気づき、「この行事は、～だ。」と笑顔で話した。 ・A校での生活ぶりについて説明した。 ・「(今のA校が)どんな様子なのか聞いてみたい。」	☆A校の情報が得られることは嬉しい。 ☆自分がないA校のことが気になる。 ☆寂しさを感じていることについては、慎重に対応する。
6 / 18	・痛みが強まってきている。 ・腹痛等の体調不良があり、ベッドで一人泣いていることもある。	担任からリモート通信のメリット(直接顔が合わせられることで、表情なども見ながら話ができる安心感が得られる)だけでなく、デメリット(寂しい思いがぶり返したりホームシックになってしまったり)と思えるようなことがある可能性を伝える。	・「それ(寂しく)はなるかもしれない…。」 ・「でも先生(A校担任)と話してみたい!」	☆リモート通信でA校の担任と話したいとは思っている。 ☆寂しくなるかもと葛藤している様子が感じられる。 ・「でも先生と話してみたい」という前向きな発言を大切に、リモート通信の準備を進める。

<p>6 月 下 旬</p>	<p>・治療の経過が思わしくない。 ・7/2(金)に、再手術が決定。 ・再手術が決まった6/23には、登校できる様子ではないとの病棟の判断で、最初の手術での欠席を除き初めて1日欠席をした。</p>	<p>対象生徒の様子に応じて、授業の合間にはできる限り本人の話を聞くことにした。</p> <p>手術前日(7/1)に、A校より届いた千羽鶴とアルバムを渡す。</p>	<p>・「これまでのリハビリが無駄になった…。」 ・「再手術をうけたくない…。」 ・学校では、自分から話をするのは全くなく、表情も沈みがちで元気がない様子が見られた。 ・欠席した日には、看護師と時々会話はするものの、ほとんどの時間を病室で沈んだ様子で、一人で過ごしていたと聞いている。 ・笑顔でアルバムをめくり、非常にうれしそうな表情を見せた。 ・地元から保護者も来られ、心理的にも安心した中で、再手術は無事終了した。</p>	<p>☆同室の友達も登校すること、話をしたいと思える教師が学校にいたこと、1日欠席しただけで登校することができた。 ☆再手術以外のことに気持ちを向けることが大変難しい。 ・A校に対象生徒の現状を伝え、リモート通信はしばらく延期することとした。</p>
<p>7 月 上 旬</p>	<p>・手術後、翌週から欠席することなく登校できた。 ・術後は、ずっと強い痛みがある。痛みによる睡眠不足や、体調不良の状態は続いている。 ・再手術後で体調は戻りきっていない。</p>	<p>体調の確認と併せて、リモート通信への思いを聞き取る。</p> <p>リモート通信を前に、話す内容を事前に考えるため、ワークシートに記入する(資料2)。</p> <p>アンケート形式で、今の気持ちの聞き取りをする(資料3)。</p>	<p>・「(A校)担任の先生と話をしたい。」 ・対象生徒の思いを記入してもらおうとしたが、書きづらそうな様子であった。 ・担任から「こんな事は？」といくつか例示すると、それを聞きながら記入していく様子が見られた。 ・テレビ電話は楽しみですか？ →5段階評価で4。 ・不安があるならどんなことですか？ →『治療のこととかを聞かれたりしたとき。』</p>	<p>☆リモート通信をして、A校の担任と話をしたいと思っている。 ・7/13にリモート通信ができるようにA校と相談し、実施予定となる。 ☆聞きたい事などが自分からはでてこない様子からは、対象生徒はA校担任と話をしたいという気持ちがさほどないのではないかと、リモート通信をすることに対しての気持ちが、あまり前向きではないのかと思われた。 ☆対象生徒は、A校担任と話をしたい。 ☆リモート通信で、患部が見えること、治療のことを聞かれることへの抵抗感がある。 ☆リモート通信の時は、対象生徒の姿を映さないことが、今の段階ではふさわしい。</p>

※資料2:ワークシート「リモート通信に向けて」

◎守山養護学校に登校して約2か月がたちました。そこで、以前から少し話はしていましたが、テレビ電話で先生と話をしてみましょう！

1. 先生に伝えよう

今の生活や学校の様子など、何でもいいです。こんなことを話そうかなと思うことを考えてみましょう。

あいさつ プレゼントのお礼
友達に向けて 勉強、部活頑張ってるって伝えてもらう。
プレゼントのお礼を伝えてもらう。

2. 先生に聞いてみよう

クラスの様子や行事のことなど、気になることはありませんか？

クラスの様子 部活のこと
クラスの様子はどうか。
部活の様子はどうか。

※資料3:アンケート

◎今回のテレビ電話に向けてアンケート

1: そう思わない 2: あまりそう思わない
3: 変わらない(みつう、まめまめ)
4: そう思う 5: とてもそう思う

①自分で話したいことはまともりましたか？

1 2 3 4 5

②聞いてみたいことはまともりましたか？

1 2 3 4 5

③テレビ電話に向けて不安はない！

1 2 3 4 5

不安があるならどんなことですか？

3日間のことを聞かれなりました。

④テレビ電話は楽しみですか？

1 2 3 4 5

7 / 12	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みによる睡眠不足で体調が悪化。保健室で休養をとった。 ・精神面での落ち込み(病棟での人間関係のトラブルの影響もあり)。 	<p>翌日(7/13)のリモート通信に向けて、対象生徒と話をします。</p> <p>1学期中のリモート通信はどうかを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今は、色々なことがしんどい。」 ・「(翌13日のリモート通信は)延期にしてほしい。」 ・友達へ「プレゼントのお礼を伝えておいてほしい。」 ・A校担任へ伝えたいことや、話したい思いはあるが、体調面でのしんどさがあるので「延期したい。」 	<p>☆対象生徒の表情や動きを見ていて、辛いことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リモート通信は、無理して取り組むことではない」「嫌だと思えばやめてもいい」「延期することもできる」と担任から伝える。 ・リモート通信は、2学期に延期する。
--------------	--	---	---	--

<p>2 学 期 9 月 初 旬</p>	<p>・元気がなく食欲が落ちている(同室の友達が退院、面会制限の為長期間親と面会できていない)。 ・痛みは継続しており、体調は万全ではない。</p>	<p>本人の気持ちを押し量るために、様々な教師が慎重に話をする。</p>	<p>・「(リモート通信については)忘れてはいるわけではないが、今は文化祭のことをがんばりたい。」 ・10/1の文化祭に向けて、対象生徒は他の中学部の全在籍生4名と文化祭実行委員として活動している。在籍数が少なく、教師の呼びかけに対して「自分たちがやらなければ。」と一人も欠けることなく委員としての意識をもち、学校が休みの日も病棟で話をしていることもある。笑顔を見せながら楽しそうに取り組み、表情は良くなってきている。</p>	<p>☆延期にしたリモート通信はまたしたいと思っている。 ☆今は、本校での取組や、近くにいる友達や教師との関わりの中で、安心して毎日を過ごすことが、本人の安心につながっている。 ・A校とは、本人の現状を伝える等、随時担任間で連絡を取り合う。</p>
<p>10 / 19</p>	<p>・体調や治療に変化は特になし。 ・痛みはまだ続く。</p>	<p>15日に誕生日を迎えた本人に、A校から誕生日プレゼントが届き、寄せ書きを受け取る(地元校中間テストも同封)。 お礼を伝えるために、昼休みにA校担任に電話をする。</p>	<p>・テストについては、冗談交じりに「うれしくない。」と言っていたが、寄せ書きと通信はうれしそうな表情ですぐに手にとって見ていた。 ・電話をする前は「緊張する、何を話そう。」とそわそわした様子であった。 ・電話がつながると最初にていねいにお礼を伝え、友達にもお礼を伝えてほしい旨を伝えた。電話中は笑顔で質問にも答えており、なごやかに話をしていた。 ・22日に行われるA校の文化祭の話も聞き、また後日、本人が見られるようにDVD等で映像を送ると聞いた。また、夏休みの課題についてもA校担任より「よく書けていた。」と講評をしてもらうことができた。 ・電話後にどうだったか質問をすると、「最初は緊張したけどしゃべれてよかった。」と話してくれた。</p>	<p>・本人には中間テストが届くことは伝えていた。(本人がどのようなテストなのか見たいと言ったこともあり、A校にも依頼していた。) ☆お礼がしたいという思い。 ・まずは、お礼の電話をかけてみようかと提案。 →「そうする」とすぐに返答。 ☆久しぶりに直接A校の担任と話をすることができてホッとした様子であった。</p>

11 / 19	<p>・痛みも随分おさまってきた。</p> <p>・保護者が来訪され週末も外泊ができるということで気持ち的にも元気な様子。</p>	<p>外泊前に保護者懇談を実施。</p> <p>文化祭のDVD受取。(保護者が来訪の際にA校から預けられた。)</p> <p>DVDは保護者から本人に期末テスト(11/25, 11/26に実施)が終わってから視聴するよう言われた。</p>	<p>・外泊ができるので、嬉しそうな様子で一日過ごすことができていた。</p> <p>・DVD視聴については、保護者の意向を聞き入れ、「テスト勉強を頑張る。」と納得。</p> <p>・懇談には、本人も同席。</p> <p>「装具等が全て外れてからA校に帰るほうが良い。」という保護者の話を聞いて頷いていた。</p>	<p>(保護者と懇談時退院時期が2月頃になりそうだと確認。また、年末年始は実家に帰省できることも決まると報告を受けた。)</p> <p><u>☆退院時期については本人も納得。</u></p>
12 / 3	<p>・体調は変わりなく元気に過ごしているが、時々痛みは出る。</p>	<p>昼休みに文化祭DVDを視聴。</p> <p>DVDの内容は「合唱コンクール」と「学年劇」</p>	<p>・「4月よりみんな歌がうまくなっている。」</p> <p>・「劇は出るより、見ていたいな。」</p> <p>・嬉しそうな笑顔で視聴した。</p>	<p><u>☆A校の様子を見ることができて嬉しい。</u></p> <p>・またDVD視聴の感想等をA校に伝える方法を考えていくことを提案。</p> <p>(昼休みに視聴したことで時間がなかったので、伝える方法については本人にも考えることを促しながら、次週に相談することとした。)</p>
12 / 9	<p>・急遽、退院の話が出てきた。</p> <p>・そのため、年末に地元へ帰る際に一時退院し、抜釘の手術時に再入院することとなった。</p> <p>・12/25で退院し転校となった。</p>	<p>退院の話を受け、装具を付けたままA校に通うことになるため、リモート通信での、A校担任とのやり取りを提案した。</p>	<p>・リモート通信の提案には、これまでのような「どっちでもいい。」という回答ではなく、「やる。」という返答があった。</p> <p>・「不安なことは、勉強。装具をつけて帰ることに不安感はない。」</p>	<p><u>☆これまで成績が伸び悩んでおり、全体指導になるA校での授業についていけるか不安に思う。</u></p> <p>・学習に対しては、本校で補習を実施。また、「心配なテストのこと等はA校担任に直接聞くほうがよい」と話をした。</p>
12 / 20	<p>・体調面での変化はなし。</p>	<p>A校担任とリモート通信実施</p>	<p>・通信前に、画面映りのチェックを行い、手近にあった紙に自ら聞きたいことを書いて準備をした。『・テスト』『・宿題』『・部活』と箇条書きで自分が聞きたいことを書き出した。</p> <p>・直前になると「緊張してきた。」と落ち着かない様子であったが、通信が始まると笑顔でにこやかに話をする事ができた。</p> <p>・通信終了後、「少し安心した。」と担任に伝えた。</p>	<p>・本人は聞きたい事も聞け、装具の消毒の方法など、A校担任からも質問を受けて、学習面、生活面の話を併せて行うことができた。</p> <p><u>☆不安に思っていたことをリモートで聞き取ることによって一定解決をし、安心感をもつことができた。</u></p>



《対象生徒の変化》

・転入当初は、A校での楽しかった学校生活を思い出し、A校のことを聞きたいという思いがあった。A校の担任のことが好きで、顔を見て話したいと思っていたが、入院が長期になり、本校でできた友達や教師との人間関係が広がり深まってきたことで、自分の思いを話せる相手もでき、A校の話が話題にあがることは減ってきた。

・初めはリモート通信で話ができることを楽しもうとする心の余裕があったが、痛みを伴う過酷な治療を長期にわたって受け、保護者とも会えない生活の中で心身共に不調になり、リモート通信という新たなことに向かう不安と負担感が大きくなった。

・上記にある、夏前にあったリモート通信への不安感については、後述のTeamsの取組を通して、何度か実際に体験をし、新たな取組とせず、不安感の軽減を図ることができた。そのため、退院前のリモート通信へは、前向きな姿勢で取り組むことができ、自身の不安に思っていることの解決につなげることができた。

②『歴史人物新聞』の課題作成を通じて

A校から、夏休みの課題として『歴史人物新聞』等を作成する社会科の課題が出た。

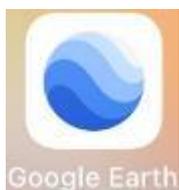
作成した課題は、A校に郵送してクラスの友達と同じように掲示してもらうこと、A校の教師に講評してもらう等の取組を通して、A校とのつながりを感じることができるよう計画した。

9月初めに、夏休み明けの実力テスト(A校作成)を実施したので、その結果と併せて、A校に郵送した。A校に到着後、A校の文化祭の際に地元校の生徒と同様に掲示をしてもらった。電話でA校担任と本人が話をした際に、「よく書けていたよ。」と講評をもらった。

目標(2) 自分の現在の生活に合わせた学習方法を見つけ、主体的に日々の学習に取り組めるようにする。

○『Google Earth』『Apple TV』を活用した学習

◆使用アプリ：Google Earth



社会科(地理)の学習で、生徒が一人ずつiPadを持ち『Google Earth』のアプリを活用し、授業の導入の調べ学習を行ったり、調べた内容を『Apple TV』を使用して前面に映し出して発表したりするというような取組を、2学期から実施している(『Apple TV』は、治療中で動きづらい生徒らが、移動することなく発表を行いやすくするために使用)。



○『Teams』を活用したやり取り

◆使用アプリ：Teams



放課後、病棟にiPadを持ち帰り、学習に活用したり、教師とやり取りしたりする取組を実施した。取組を始めてすぐに、何気ない日常の一言をチャット欄に投稿して担任とやり取りするなど有効に活用していけそうな見通しが立った。しかし、その後、病棟からの指示で持ち帰りができなくなってしまった（事前に病棟に許可を得ていたが、病棟内でWi-Fiでの電波障害の影響等が再検討され、持ち帰りができなくなってしまった）。

- 病棟での視聴が可能か通信状況の確認の為に、教師がNHK for Schoolの動画を生徒のiPadに送った時のやり取り



- 生徒が明日の日課について、生徒と教師のグループチャットに書き込んだ時のやり取り



《対象生徒の変化》

- ・教科学習のような、教師からiPadを提示する場面以外でも、自ら活用することができている。
- ・文化祭実行委員会の際には、『Apple TV』に自分のiPadの画面を映し出す操作をして、テーマソングを決めるために自分の好きな歌やスローガンにふさわしい単語を自ら検索し、他の生徒らに画面を通して見せながら話し合いを進めることができた。
- ・iPadの使用に関しては、病棟に持ち帰ることができないものの、日常の学習の中では調べ学習に活用したり、リモート通信の体験に使用したりすることで、当初本人が感じていたリモート通信という新たなことに向かう不安と負担感を軽減することができ、本人にとって身近なものになり無理なくスムーズに、かつ主体的な姿勢を以て最後のリモート通信につなげることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・思いに寄り添うことの大切さ

治療状況を考慮し、本人の気持ちに寄り添うためには、計画を進めようとする我々教師が、当初の計画を適宜見直す意識をもち続ける必要がある。機器があるのだからと教師主導でどんどん使わせていくのではなく、子どもの“思い”を聞き取りながら、スムーズに進めることができた。ICT機器を身近に置きながらも、子ども自身がそこに向き合えるようになるまで待ち、前向きになってからリモート通信に取り組めたことで、最終的には復学への不安が軽減された状態で退院を迎えることができたと考えられる。

- ・ICT活用のメリット

手紙でのやり取りなど、方法は考えられる。しかし今回のケースのように、急な退院が決まった場合、アナログなやり取りでは時間が掛かりすぎてしまうため、安心してA校に帰るといことは難しかったのではないかと思います。『前向きに取り組める』と本人の思いが変わってきた際に、すぐに取組が始められることはICTの利点であると考えられる。

・エビデンス(具体的数値など)

本人の思いや本人と話した内容から、その時々感情の浮き沈みから見られる表情の変化や、会話の際の話し方、内容の違いなどを受け止め取組を重ねてきた。具体的な数値でのエビデンスはないが、ゆっくりと本人の思いに寄り添い、じっくり話をして関係を作り上げてきたことで、退院直前には教師からの提案を受けて、これまであまり積極的ではなかったリモート通信に対し、自ら「やってみたい。」と明るい表情で答え、前向きな姿勢が見てとれた。また、自分でメモを用意するなど本人が主体的に取組に向かうことができた。A校担任とのリモート面談では、気になっていた冬休み明けのテストのこと(冬休みの課題の確認テストは無いが、自治体実施の確認テストが1月中頃にあることなど)が聞けたり、そのテストに対しても過去問等を準備して、学習できるようにしていることなどを教えてもらったりすることができた。リモート通信終了後に、自ら「安心した。」という言葉を出し、にこやかに「これまでの不安感が軽減した。」ということを伝えられたことが、今回の取組の成果だと考えている。

・その他

A校に復学後の本人の様子聞き取りを行った。元気に登校できているという話も聞いた。退院後に地元の学校に戻る子どもにとって、本校で過ごす間の安心感と併せて、地元に戻る際の不安感を少しでも軽減できる取組こそが本校の担う役割であると考えている。その中で、どのタイミングで、何のためにICT機器を活用するのかを常に考え、工夫していくことが大切であると考えてきた一年間の取組となった。